

無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



Life Crossing

人生・生活・命の交差点/季刊(創刊2001年)

2023年秋・74号

信条・世に媚びず ・ 枠にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行/吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <https://lifecrossing.ne.jp/>
E-mail : info@lifecrossing.ne.jp



信州の木版画家・矢島慎吾さんの「少年期」

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

大金持ちに怒りを！ 不平等に抗議を！
東京都 江東区 三田 栄考… 2

科学技術とエネルギー - その不都合な真実 -
北里大学名誉教授 馬淵 清資… 3

「台湾のために戦うか」同国民半数以上が「NO」
- ある台湾人の台湾有事への意見(下)
在台北市工場経営者 久 芳 太… 4

新外交イニシアティブ(ND)の提言(下)
「戦争回避」の核抑止力と反撃能力 編集文責・当誌… 5

「インドから問う、君たちはどう生きるのか」
フォトジャーナリスト 山本 宗補… 6

食エネ自給のまちづくり
合同会社 小田原かなごてファーム代表社員 小田原市 小山田 大和… 7

松平春嶽(中)政権への可能性 東京 阿部 敏夫… 8

柳原白蓮(宮崎雫子)の生き方
大正天皇の従姉妹で恋に生き平和運動にも貢献
東京 上野 馬場 雅雄… 9

ドバイで絵や映画の販売事務所を開設(22)
映画監督・画家 増山 麗奈… 10

Mリーグとは 東京 品川 大山 桜… 11

恭子の日記²⁸ どう思いますか
「AI」が来る世の中を
画柳会代表 中田 恭子… 12

人々の小景²⁴ 瀬戸内晴美・寂聴 - 曼荼羅の女 -
市川 隼… 13

日韓の入管法と外国人政策
具良鉦「韓国の入管法 憲法裁判所で違憲判断」から
比較を試みる
一橋大学名誉教授 田中 宏… 14

生まれ変わったら、また 前島 咲子… 15

余録/編集後記… 15

私の「社会保障立国」論 江戸川区 弁護士 柴田 勝之… 16

大金持ちに怒りを！ 不平等に抗議を！

東京都 江東区
三田 栄考

私は東京の街を運動を兼ねて歩くのが好きである。下町の狭い路地を歩くと洗濯物が干されたり狭い車庫スペースに工夫して車が止まっていたり、生活の匂いが汲み取れるので面白い。他方、山の手と言われる麻布や世田谷の高級住宅地を歩くのも気分が良い。見るからに高そうな建材で見栄えも良く、隣家とも余裕の間隔で、ゆったりとした生活がうかがい知れる、どんな人が住んでいるのかと想像したりする。

散歩の風景としては楽しいものだが、ふと、両者の生活に想いを馳せるとこれで良いのかと腹立たしい思いがする。いや、幸いにして私の生計は中流には属するだろう。もし、我が家の家計が年収500万円にも満たなければしゃくに触るよりもコンチキショウと思うだろう。「俺だってこれまで一生懸命働いてきたのに、彼らの10分の1の収入もないのはおかしい。そう言えば所得だけではない、資産はもっと不平等だ。俺みたいな賃貸マンションで殆ど資産もないが、彼らは広い敷地に豪華な家に住み、他にも色んな財産を持っているだろうから10倍どころの差ではあるまい。同じ日本人なのに何十倍、否、百倍以上の不平等があるのには我慢できない。俺よりももっと貧しい人も多いのに、なんで彼らは怒らないのだろうか？おかしいなあ！」と。

有史以来

勝ち組が社会・国を支配

日本では武士が為政者、支配者層となり、国の文化や雰囲気、世論を練ってきた。勿論、彼らは巧みに権力と利権

でその周りに配下を集めてきた。中世も近世もそして現代もその構図はほぼ同じである。日本も外国も。現在も金持ちや成功者が、勝ち組が発信力と教育手段を多く握っているから、現代の社会制度、



システムを良きベストな社会という誤解を浸透させている。金持ちが金を集積することや手段に正当性を流布させる。例えば、エジプトのピラミッドを見学すると、日本の

城址で石垣や天守閣を案内されると、その立派さや技術のみが称賛、説明される。その裏にどれだけ多くの庶民が働かされたことか、こき使われ、亡くなった人も多かった筈だが一顧だにされない。我々はそう洗脳されて日本の歴史と為政者に敬意を払い尊敬するように仕立てられた。その象徴の最たるものが天皇制である。

私は1%の勝ち組が99%の国民（少なくとも非勝ち組）を巧みに統治していると思う。私の商売の業界の理事長がこう語った。「国民に貧富の格差があつた方が良い。金持ちからなら税金を沢山取れるからな」と。彼が1%の勝ち組かどうか知らないが、貧富の格差を謳歌する（勝ち組にとって）都合の良い理論ではないか。彼の100万円は貧乏人の10万円の価値しかない。富は偏るよりも等しく分配される方が、遥かに人々に幸せを与える。我々は、不平等は格差は悪だと声を限りに叫ぼう。努力不足、機会均等宣伝にだまされるな。超金持ちは犯罪人だ。人間はもっと平等になるべきだ。年収は比較

的、分かりやすいが、資産は数字に出にくい点が多く、金持ちの隠れ蓑になっている。

野村総研は一昨年（2017年）の日本における純金融資産保有額別の世帯数と資産規模の推計を公表した。《純金融資産保有額》を基に総所帯数を5つの階層に分類した。5億円以上の『超富裕層』が9・0万所帯で0・166%、1億円以上139・5万所帯で2・6%。彼らが勝ち組だ。金融機関や贅沢品を扱う業界はこの2つの層にしか関心がない。しかも13年以降、一貫して増え続けている。2年間で彼らは364兆円増えた。一番貧乏の3000万未満はマス層といひ何と77・8%、アッパーマス層5000万未満が13・4%、中間の1億円未満の準富裕層が6・0%。資産や金融資産には基本的に課税されない、隠しやすい。野党はもっと声高に課税を主張すべきだ。他方、貧困が多くの国民の幸福を奪っている。超富裕層の富をマス層に回そうというのが社会民主主義の出発点だと思ふ。超大金持ちは庶民から幸福を奪う犯罪者だと弾劾しよう。

科学技術とエネルギー

その不都合な真実

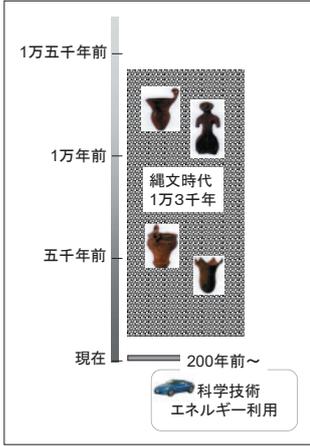
北里大学名誉教授 馬淵 清資

科学技術は、現代社会の柱となっている。しかし、その能力には、意外な限界がある。実は、科学技術には、「物質」を作る能力がない。それを象徴するのが、科学技術の後ろ盾、「エネルギー」の本性である。

エネルギーには、具体的な姿、形がないので、その本性は、見えにくい。辞書をひもとくと、「仕事をする能力」を定義としている。この「仕事」は、物理学で言う「力学エネルギー」ではない。(それだと堂々巡りになる。)もつと、漠然とした広い意味での「仕事」である。実は、我々は、エネルギーのなす「仕事」の内容から、エネル

ギーとは何かを理解している。歴史上、最もエネルギーが仕事をして来たのは、軍事目的である。現在も、単純な炎の熱から大砲の火薬やミサイルの駆動力、原子爆弾に至るまで、エネルギーの破壊力が、重宝されている。一方、平和利用においても、エンジンの動力や電気のエネルギーは、化石燃料を消費(破壊)することで、生み出される。

これらのエネルギーのなす仕事を俯瞰すると、エネルギーは、「物質を破壊する過程で仕事をする能力」という定義が妥当ということがわかる。当然、エネルギーの下部にある科学技術には、物質の破壊を伴う仕事しかできない。



日本の歴史

では、製造業の世界で「もの作り」という言葉がキャッチフレーズになっているのは、どういうことか。実は、ここで言う「もの作り」は、物質の生成を意味し

ない。材料を加工して組み立てる機械工業は無論のこと、素材を供給する化学工業といえども、石油や石炭などの有機物を組み換えて、プラスチックを合成しているに過ぎない。化学肥料の生産にしても、有機物の使用は、避けられない。いずれも、材料の加工が付加価値を生むので、製造業という職業として成立しているに過ぎない。



救世主の皮を被った破壊神

将来にわたっても、科学技術が、物質を生成する日が来るといふ望みは薄い。中でも、有機物つまり高分子物質の合成は、絶望的である。その理由は、有機物の持つ情報量が膨大すぎて、科学技術の扱いきる情報量を遥かに超えているからである。

有機物の生成は、生物のお家芸で、中でも空中の炭素と水から炭水化物を生成する炭酸同化作用は、その主役である。炭酸同化作用を司るのは、葉緑体で、それを生み出すのは、植物の遺伝子である。そして、葉緑体の遺伝子配列は、すでに、科学的に解明されている。それならば葉緑体の仕組みを、人工的に複製できないのだろうか。

筆者のプロフィールはWikipedia馬淵清資をご覧ください。バナナの皮を踏むと滑る理由を世界で初めて科学的に解明し(人を笑わせ、考えさせる研究に贈られる)イグノーベル物理学賞を2014年に受賞。

「台湾のために戦うか」 「国民半数以上が「NO」

ある台湾人の台湾有事への意見(下)

在台北市工場経営者 久芳太

前号に続く台湾人実務家の意見です。(和訳は在住日本国籍中国人にお願いしました)

安倍晋三前首相は2021年12月1日、「台湾有事は日本有事」と発言、台湾海峡問題に日本が介入すべきとの考えを示し、たちまち国際的な注目を集めました。中国外務省は日本に対して「火遊びは災いの元である」と厳しく非難・警告を発し、一方、台湾の一部の人たちはこの観点に海の流木をつかむようだと非常に興奮しています。私も個人的には「日本が中国の軍事的脅威から共同で防衛するためにタイムリーに援助の手を差し伸べる」ことには非常に期待しています。しかし、慎重に判断する必要があります。結局のところ、この見解は安倍首相の退任後の発言にすぎず日本政府の政策を代表する



ものではなく非現実的です。日本の明確な政治的意味合いは、中国が台湾に侵攻する際に米国が台湾防衛を支援し、同時に日本は尖閣諸島の主権が中国によって脅かされることにより、中国軍艦に向け発砲、日米安全保障条約に基づき米国は必ず日本へ出兵支援、日本は領土を守ると同時に米国と協力して台湾の防衛に協力するということです。しかし中国

は米国と日本を封じ込めるために、ロシアに中国支援を要請し、北朝鮮もこれを機に韓国に侵攻する可能性があり、第三次世界大戦が勃発する可能性が非常に高まるでしょう。

大国の指導者は世界平和について考えるべき

2022年から、米国は数百人の海兵隊員を秘密裏に台湾に派遣して台湾の特殊作戦部隊の市街戦訓練を実施し、また暗闇の中で輸送機を派遣して武器輸送し、台湾の米国機関に保管するなどの準備を進めています。表向きは中国の侵略と戦う台湾を積極的に支援するようですが、実は華僑の避難を準備しています。

台湾の軍事専門家は、米国によるわが軍の市街戦訓練は、米国が台湾をウクライナ化する準備をしていることが明らかで、台湾には公海で敵を制御できるような高度な兵器を提供しないと分析しています。まるで彼らはウクライナに武器を提供しているが、ウクライナが提供された武器を使用してロシア本土を攻撃することを許可していないようなものです。敵を国境の外に制御できない戦争は打ち負か

されるしかない。そして戦争が長引けば長引くほど、中国の経済力を消耗することになる。利益を得るのは米国であり、犠牲になるのは台湾です。

台湾の街頭インタビューで、中国が台湾に侵攻した場合、台湾のために戦うかという質問に、国民の半数以上が望んでいないと回答、とりわけ多いのは20歳から29歳の若者で70%以上です。

台湾独立は蔡英文総統の民進党の基本理念であり、同党は数十年にわたり台湾独立を主張してきたが、二大政党の交代で政権を握った後は台湾独立を宣言せず、国名も変更しませんでした。台湾独立というのは民進党があえて言いはするが、実行はしないスロガンにすぎません。実際、ほとんどの台湾人は安定を望んでいますが、共産党に支配されたくない。台湾が中国軍の脅威にさらされずに独立できれば台湾人の多くはこれを選択すると思います。中国は「二国二制度」を提唱していますが、台湾人は香港の例を見て完全に失望しています。

したがって、台湾の人々は一般に現状を維持する傾向があ

り、統一も独立も望んでいません。

台湾第三党の民衆党の柯文哲主席は、元台北市長で来年の総選挙に出馬が予定されている。中国と台湾の国民を喜ばせるために「海峡の兩岸は一つの家族だ」と述べた。彼は現状を維持する傾向があり、統一も独立もしない。もともと民進党の政策を支持する傾向があったため、統一支持や台湾独立支持を明言していません。そのため、台湾民衆の中で彼の評価はあまり良くななく、中道を行くための二面性を持った日和見主義者だと思われている人もいます。

台湾の将来は、世界中の民主主義諸国の共同防衛にかかっており、台湾は高品質な半導体シリコンデバイスの生産の中心となっています。米国家情報長官(DNI)のアヴリル・ヘインズ氏は、中国の台湾侵略により半導体大手メーカー(TSMC)が生産停止につながる可能性があり、全世界経済は最初の数年間で年間1兆ドル以上の損失を被り、中国経済も全世界的な経済制裁により改革開放以前に戻らるだろうと警告しています。



「戦争を回避せよ」表紙

戦争を確実に防ぐためには、「抑止」とともに、相手が「戦争してでも守るべき利益」を脅かさないことにより、戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠である。大国を抑止するには大国間の戦争を覚悟しなければならず、また大国間の戦争を避けようとするれば大国の暴走を止められないのがウクライナ侵攻の抑止の現実である。大国の武力行使も、世界戦争も、選択することはできない。戦争回避の為に抑止の論理にのみ拘泥する発想からの転換が求められる。勝利を楽観視させないための防衛の意思と能力は必要である。同時に、戦争は、他の手段では目的を達成できないという「外交への悲観」によっても始まる。それゆえ、戦争を防ぐためには、外交による解決の余地を残す政治的柔軟性が必要となる。抑止のためには、相手がこちらの反撃の能力と意思を疑

新外交イニシアティブ(ND)の提言(下) 「戦争回避」の 核抑止力と反撃能力

編集文責・当誌

わず、手痛い損害を被ることを確信する必要がある。だが、そこには多くの誤算や認識の齟齬が生まれる。相手

は、こちらの意思を軽視するかもしれない。あるいは、損害を過小に見積もるかもしれない。さらに、「いかなる反撃を受けても断じて譲歩できない」と考えるかもしれない。これらは、ロシアがウクライナ侵攻で示した侵略する側の心理である。反撃を図ろうとする側も、どの程度の武力を加えれば相手が侵攻を断念するか、正確には理解できない。そこで、反撃力が大きいほどよいと考える。その究極には、核兵器がある。

一方、反撃が大きいほど、相手の再反撃も大きくなる。大国を抑止するには世界戦争を覚悟しなければならない。それゆえ、戦争を回避し、戦争の危機があれば早期に収拾するために、今から、展望を持った外交を展開しておくかなければならないのである。戦争を確実に防ぐためには、「抑止」とともに、相手が「戦争してでも守るべき利益」を脅かさないことにより、戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠である。

心供与の概念はほとんど認識されていない。安心供与は、一方的に譲歩することではない。和解が困難な相手であればあるほど、互いに譲れない最低限の要求を認識し、それを両立させる道筋を見出すことである。中国は、台湾侵攻に対しての米国の対応を予測できる。それゆえ、台湾への武力行使には慎重になるとともに、米国の武器支援に対抗する手段を周到に準備するだろう。

「敵基地攻撃論」における政治的役割
敵基地攻撃が抑止として機能するためには、相手が攻撃による目的を達成できないと認識するほどの損害を与える必要がある。相手が中国であれば、沿岸部の数か所の基地を攻撃するだけでは不十分で、内陸部にある基地や堅固に防護された司令部を含め、致命的なダメージを与えなければならぬ。日本がそれだけの能力を持てるかと考えるのは、現実的ではない。飛来するミサイルから防御する観点で言えば、ミサイル基地を破壊すれば、発射されるはずで

あったミサイルを防ぐ効果はあるだろう。だが、すべてのミサイル施設を破壊することは不可能であり、必ずミサイルによる報復がある。また、敵基地攻撃とは、敵基地がある相手国本土を攻撃することである。相手もこちらの本土に報復して戦争が拡大する。こちらの被害も拡大し、早期終結を困難にする。「抑止」としても「対処」としても、必要な条件を満たせない。

こうした政策を持つことで防衛を楽観視し、かえって戦争回避のための外交がおざりになることが懸念される。今日のミサイル技術の趨勢を踏まれば、発射の兆候はもとより、飛行経路を把握することも困難である。どの地域を対象に、いつ避難するかを正しく決定することは不可能に近い。国民を保護することを検討するよりも、徹底した外交努力による方が遙かに現実的な選択であろう。総じて言えば、日本の安全保障議論は、戦争のリアリティーに基づいていない。戦争は、彼我の相互作用であり、悲惨な犠牲のない戦争はあり得ない。

「インドから問う、 君たちはどう生きるのか」

フォトジャーナリスト 山本 宗補

一億五千万人ともいわれるインド仏教徒の最高指導者となった佐々井秀嶺師の話題がSNS上で今年ほど急激にあふれたことはなかった。2月の「世界ふしぎ発見」に続き、4月の「マツコ会議」と、民放の人気番組で続けて紹介されたのが最大の要因だ。そこにコロナ禍で延期されていた佐々井師の4年ぶりの一時帰国が重なった。

二つの番組で共通しているのは、IT業界の第一線で活躍していた小野裕史さんが、佐々井師の元で出家、得度したことに引き続き。東大卒のビジネスエリートが、なぜお金と地位を捨て、会社を突然辞め、2022年10月、インドで佐々井師により得度し見習い僧となったのか、という話題が番組制作の大きなきっかけとなった。小野氏は「龍光」とい



インドから帰国し四谷で講演する佐々井秀嶺師

う僧名を佐々井師から授かり、俄かに「佐々井秀嶺ってどんな人」という話題が拡散

されていた。6月から7月の一時帰国中の日本行脚中、佐々井師に随身し身の回りの世話をしたのが見習い僧の龍光さんだった。ただ、誌面が限られているので、この稿では佐々井秀嶺という日本人僧がどんな人物なのかを簡略に紹介したい。

一貫しているのは佐々井師の人間臭さだろう。佐々井秀嶺師は1935年、岡山県新見市生まれで87歳。青年時代は恋や人生に悩み、放浪癖と自殺未遂も度々。縁あって、真言宗智山派関東大本山である高尾山薬王院の山本秀順貫主の元、25歳で得度し僧侶となる。得度後も落ち着かず、浪曲師や易者などにも身を投じた。師匠は伝統仏教の型にはまらない青年僧をタイに仏教留学に出し、佐々井青年は修行後の帰国の約束を破り、インドに渡る。不思議な縁でたどり着いた地がマハラシュトラ州ナグプールという、デカン高原のど真ん中にある地方都市だった。

波乱万丈の佐々井自伝は、山際素男著「破天 インド仏教徒の頂点に立つ日本人」（光文社新書）に詳しい。私自身が佐々井師を取材しようと思いついたのは書店で見つけた、「不可触民と現代インド」（山際素男著）を読んでからだ。山際先生に背中を押され、初めて佐々井師に密着取材したのが2004年。一カ月以上密着し、本の記述が誇張ではないと実感。当時68歳の佐々井秀嶺という人間の生き様を日本社会に伝えよう

とし始めた。二度の密着取材後に、「アエラ」の人気コラム「現代の肖像」枠で佐々井師について書かせていただいたのが2005年。一億人を導く僧侶。ブッダが悟りを開いた聖地ブツダガヤの大菩提寺管理権をヒンドゥー教組織から仏教徒の手に取り戻す示威活動、世界遺産級の仏教遺跡発掘の成果などについても紹介した。「インドはカースト制の弊害で、お互いに信用せず、足を引っ張り合う不幸な国。義理と人情と度胸がなければインドではやっていけない」と佐々井師は口癖のように話していた。

佐々井師がインドで本領発揮できた背景理解には、ガンジーと同時代を生きたインド近代史の巨人、B. R. アンベードカル博士についての理解も重要だ。アンベードカル博士とは、インド独立時にネルー首相の任命で法務大臣を務め、インド憲法を起草した人物。ナグプールは、不可触民出身のアンベードカル博士が、1956年10月に同胞50万人を導き、ヒンドゥー教を棄て、仏教に集団改宗し、インド仏教を復興した最大聖地だった。だが、集団改宗から

二ヶ月後にアンベードカル博士は病没し仏教徒のリーダー不在の歳月が続いた。たどり着いたナグプールで、佐々井師は地道な活動を経て仏教徒の信頼を得、リーダーとなっていった。2006年のアンベードカル博士による集団改宗50周年という歴史的な祝祭宗教学行事を大成功に導き、一度に7000人余を集団得度させる荒業もやったのけた。

2009年には44年ぶりの一時帰国を果たし、二カ月間の報恩行脚の旅を終えインドに帰国。この間、ずっと同行取材し、「日本行脚」にまとめて出版した。東日本大震災と原発事故発災後、佐々井師から被災地に行きたいという国際電話を受け、発災から3ヶ月後に岩手県から福島県まで案内し、鎮魂の読経を務めていただいた。

文字数の余裕もないので、佐々井師に随身した龍光さんのコメントで結びたい。「今この瞬間を恩ある人のために生きる。明日の事など考えない。使命＝命を使いどう生きるのか。ただただ、それらを徹底されていらっしやるとの実感を強く感じた一ヶ月でした」

食エネ自給の

まぢづくり

合同会社 小田原かなごて
ファーム代表社員

小山田 大和
(小田原市)



小山田氏

私が今日のように農業や自然エネルギーを組み合わせて地域の再生、地方創生事業を事業として行うに至る大きなきっかけは東日本大震災と原発事故でした。正直に書けば、私は環境も農業も好きではありませんでした。また原発事故が起きるまで日本のエネルギーの問題についてまともにも考えることもありませんでした。

日本の耕作地は現在約400万haと言われています。そのうちの42・5万haが耕作放棄地となっています。小田原の耕作放棄地も年々増加し178haです。農家の平均年齢は約68歳。農業人口に至って

は統計の取り方の問題もありますが122万人となっており、いよいよ100万人を割り込む状況が見えてきています。一方で日本の食料自給率はカロリーベースで38%、東京圏は統計を取って以来はじめて0%、神奈川県も2%という散々な数字となっています。

一方で農家を取り巻く状況は収入面でも決して楽ではありません。私は米を作っています。半年間、懸命に働いても300坪からとれるお米は10万円にもなりません。こうした農業の現実を知ってしまった時、私は30代半ばでした。こうなってしまうた責任は僕たちにもある。ならば僕ら世代が農業を持続可能な状態にして次の世代に継承させなければ一体、地域やこの国はどうなってしまうのか？と思うたのです。

農業も農薬や除草剤や肥料を使わない自然栽培をやる。そして、みかんをみかんのままで売らないで6次産業化してジュースにして販売しよう。耕作放棄地は、おひるね〴〵していた畑だと捉えて、その活性化をすることで負債を資産に変えよう。こうして2013年の暮れから始まった「おひるねみかんプロジェクト」は10年目を迎え、近隣の箱根の有名ホテル、星野リゾート界箱根などでも取り扱われています。

そして、もう一つが農業と自然エネルギーを組み合わせるソーラーシェアリングです。ソーラーシェアリングとは太陽の光を発電と農業でシェアをすることからこうした名前が付けられています。現在5基の発電所を運営しています。水稲のソーラーシェアリングは神奈川では私どもだけの



田植え中



小泉氏も訪問

取組です。そこで作られた自然栽培米は地元で寛政元年(1789)創業の井上酒造さんに

持ち込んで日本酒にしています。同時にこの水稲ソーラーシェアリングで作られた太陽光の電気を同酒造に送っています。100%自然栽培米・自然エネルギーで作られた日本酒は恐らく世界でこの日本酒しかない、と思います。SDGsの12番に「作る責任、使う責任」という項目があります。これからは生産者も地球に負荷をかけないように商品を作るべきであり、消費者もそうした商品を積極的に選択することが当たり前になる社会になって欲しい。そんな願いを「推奨」という言葉に込めました。推奨とは小田原が生んだ郷土の偉人二宮尊徳の言葉で、「儲けが出たならばそれを今の自分の為に使うのではなく、将来の自分のため、そして、広く社会のために使うべきである」という意味です。行動の質を決めてい

くという点でも重要な言葉であると思っています。

更に自分で作った電気を物理的に離れた自分の運営する施設に届けるというオフサイト型PPA自家消費モデルのソーラーシェアリングにも日本で初めてチャレンジしました。いわばFIT(固定価格買取制度)に依存しない形の発電形態を作るべく、私どもがおひるねみかんプロジェクトで伝えたかった思いと価値を共有する場として農家カフェSIESTAを21年の1月にオープンさせ、そこに同時に建設したソーラーシェアリングから既存の送電線を使って電気を届けました。

原発事故やコロナ、ウクライナ問題は、私たちに人間の生存に必要なものは出来るだけ自分の手元足元に留めておくことの重要性を教えてくれたように思います。地域で自給できるものを自給する取り組みはしなやかで魅力的な地域を創れる。地域の外に出ているお金を地域内に留め地域で経済を廻すことこそ究極の地域経済活性化策との思いから「食エネ自給」のまぢづくりを推進しています。

松平春獄(中)

政権への可能性

東京 阿部 敏夫

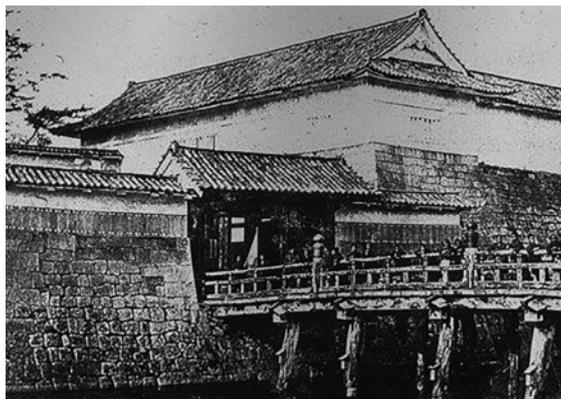
越前福井藩主、松平春獄が小説やドラマで主人公を演ずることは殆どない。

辻原登が現在、日本経済新聞朝刊に連載中の小説「陥^{かえ}弊^せ、陸奥宗光の青春」の中で時折、春獄の活躍を採りあげているのが目につく。

260年余におよぶ徳川幕府の政治体制が、きしみ出すのは諸外国との国交を迫られたからに他ならない。

越前福井藩は三十二万石である。春獄は藩主で収まるだけの人材ではなかった。地方自治体トップの容を超えていたのだ。

時代は徳川幕府の体制を古い側へと押しやり始めた。米、英、仏、オランダなど国力と軍事力を背景に、それぞれの意図をもって開国を迫ったのである。



幕末の福井城大手門 武士の姿が見える

政治は常に理想と現実の妥協の産物である。薩摩藩と長州藩との同盟が慶応二年(1860)に成立し坂本龍馬の骨折りが大きかったと後世は伝える。だが、それだけだろうか。各藩とも有力家臣団は現代の役員会議に匹敵する権限をもつ。藩主と言えども常

に独断できるわけでもない。時局を見ながら自藩の利益を最優先し、出来れば体制の近代化を考えたのであろう。

当然、長い海岸線を持つ九州や四国、そして水戸に尊王攘夷の動きが強くなる。当時は目的が正當ならば暗殺もやむなしの風潮は強く、特に京都では多くのテロ事件が発生する。

その中で春獄は冷静に論理を組み立てる。朝廷はもちろん外国との交渉に否定的である。幕府は現実の打開を急がれる。

一橋慶喜を高く評価していた春獄が慶喜の退任を言わざるを得なくなるのも運命の皮肉と言つてよい。

政争は常に結果を求められる、いつの時代でも。徳川幕府大転換のときに直面した、その時こそ春獄の論理は花開くはずであった。それは、ほころびかけていたのである。だが満開にはならなかった。知性よりも危機には優先する別の力が必要なることもある。

大佛次郎は著書「天皇の世紀」の中で次のよう

に書いている。

「アーネスト・サトウが鋭く観察したように、大名たちは概して無知で、自分で判断し志すことを知らない。布団に座っていて、反対を許さぬ決定を縦に下すことはしたが、横に大きく影響して時局を左右するような問題については、無経験だし思索する頭脳がなかった。」と手厳しい。

春獄は慶喜と共に、その中で自分で考える大名であった。私が、こだわるのは、そこである。自分で考える他に優秀な家臣を重用し、なおかつ外部にも、それを求めた。藩を超えて春獄のもとには英才が訪れる。

徳川幕府が危機の時代を乗り切る方法が一つだけあった。

勝海舟の草案と言われる「後見邸会議」の実現である。松平春獄、松平容保、伊達宗城、山内容堂、島津久



橋下佐内

光、そして徳川慶喜の六人。春獄を筆頭に開国論で一体になるはずだった。だが、そうは、ならなかった。頭がいいはずの慶喜に一貫性が足りなかった。要するにリーダーとしての俠気が足りなかったのだ。(二心殿)と言われては慶喜ファンが淋しい。

それでも文久二年(1862)慶喜は將軍後見職、春獄は政治総裁職となり国政を担当することになるのだが小栗忠順が開国、松平容保が攘夷論と、主張に一致をみられない。難かしさは現在の政治でも一緒である。

折も折、前後して活躍したのが春獄門下の橋本左内。

(次号へ続く)

NHKの朝ドラで仲間由紀恵が演じた白蓮は明治・大正・昭和の戦前、戦後を自分の気持ちのままに生きた女性だった。多くの恋愛物語は不幸な結末を迎えて終わる。が、燐子の後半生は幸福だった。1923年から1967年81歳で西池袋の自宅で心臓衰弱で死去するまで、7歳年下の帝大卒の弁護士との夫と男女2人の子供と意義ある人生・家庭を過ごした。(息

子は敗戦の4日前に鹿児島基地の空襲で戦死)

25歳年上の福岡県飯塚市の一代にして

の大金持ち伊藤伝右衛門と再婚した白蓮は、10年後今度は7歳年下の若者と恋におちる。今で言うなら不倫であるが人目を忍んで恋路を走る2年間で700通のラブレター(歌人でもある白蓮の恋歌も多数含む)を交換したのが今も宮崎家に残されていて、夫から離れて恋に生きようとす二人の心境が良く理解でき

る。生まれ、何よりも白蓮は大正天皇とは従姉妹の華族の家柄で東洋英和女学校卒の才媛であった。炭鉱王との再婚には「華族の令嬢が売物に出た」と話題になったほどだが、実は華族とはいえ白蓮は妾の子であり、幼くしては養女に出されたり、嫌がられた北小路資武に嫁がされて15歳で男子功光を産んでから5年

世間知らずのお姫様は東京から遠い九州の複雑な家族構成の大家に嫁入るが、へなへなど伊藤家で小さくなっていくかと思いきや、最初から意思をハッキリ通す、通せる女性だったようだ。家風改革に始まり、伝むねさんの女中頭にして妾をついには追い出したり、義妹や姪の教育を主導したり、自らの代わりに妾を

お金は使い放題の自由な贅沢な社交と詩歌、戯曲、小説に明け暮れた。鉦山王はどれだけ燐子の為に金を使ったか？天皇の従姉妹故にその価値があったのか、或いはそれだけ魅惑的な女性だったのか？しかも彼は姦通罪で訴えることなく離婚に合意している。

だろ。一途な思いで困難を乗り越えて駆け落ちまでして京都府の大本教の本部に隠れ住むまでして恋を成し遂げた。それも香織を身籠った体で、地位も名誉もお金も捨てて、世間の非難を覚悟して恋しい人の元に走った。

柳原白蓮(宮崎燐子)の生き方

大正天皇の従姉妹で恋に生き平和運動にも貢献

東京 上野 馬場 雅雄



柳原白蓮

で出戻っている。彼女の容姿は大正の三美人と呼ばれるくらいで博多の社交界の華であった。令和のメディアにとってもこの上もないくらい話のネタになる彼女の不倫の白蓮事件はどれほど騒がれたことか。あのダイアナ妃にも匹敵するパパラッチに追つかげられてもよいくらいの注目の的だったことだろう。

世話したりと自分をしっかり持つて生きていた。あの時代に白蓮を迎える為に大改装した飯塚市の本宅(現存し見学が可能)、筑紫の女王とうたわれた社交の場であった博多一の豪邸、更には伊藤燐子の文化サロンと化した別府宅、大阪、恋人と逢瀬を重ねた京都宅、東京と豪華な邸宅を移動しつつ夫の伝むね氏からの

の見知らぬ龍介の電報から始まる。帝大で吉野作造らの「解放」なる左翼的機関紙の編集に携わっていた書生だった。丸髷の彼女の写真を見ると、お目目パッチリ現代女性の雰囲気とは全く異なり、気の弱そうなたつむぎ加減の腺の細そうな女性だ。幸福にして不幸な境遇の彼女はたくましさを身に付けていったの

ろがなく、誰に対しても率直に意見を述べ、自分の中に一つのしっかりしたものを持つ、当時の女性としては珍しい個性に惹きつけられた」と。白蓮が令和の時代に生きていたらどんな活躍をしてくるか想像してみたら面白い。

〈参照 白蓮れんれん 林真理子 中文文庫等〉

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第22話

UAEのドバイで 絵や映画の販売事務所を開設

増山麗奈のドバイ進出

UAEの首長国内でさまざまな商品の販売ができる総合総社の中でアート事業を行います。企業コンサルタントチームがあるので、もしUAEエアラブ首長国の事業展開を希望の方がおられたらご相談ください。「世界で9個のピースアーティストセンター設立」を通じて、国際交流を通じて世界平和を実現する夢に向かって、日本・ドバイ・アラブ・北アフリカ・欧州などに絵や映画の販売を行ないます。

UAE王族が絵を買ってくれた!

私がアーティスト兼通訳として参加する「日本のアニメグッズやフィギアを展示販売する」ブースは非常に賑わっていた。ニューヨークやシンガポールのブースなどに比べても、それ以上の人気ブースであることは間違いない。我々のブースを訪れたのは一般人だけではない。UAE王室一族の方々も来訪された。そして訪れただけではなく、なんと私の絵を認めて頂き、さらにはお買い上げ頂いたのである。

絵を買って頂いたのは、アラブ首長国連邦を構成する7首長国の一つ、ラス・アル・ハイマール首長国王の弟であるマジッド殿下だ。

私はAIを活用したアート集団「Paramita」の一人として作品を展示し、アーティスト兼通訳として参加していた。マジッド殿下はこのAI技術を活用した作品に興味を示し「オリジナルとエディションはどのような違いがあるか」など質問をされた。ラス・アル・ハイマール首長国では仮想通貨特区を作る計画もあり、最先端技術を学ぶセミナーが頻繁に開催され、観光

に関わるマジッド殿下はAI技術に造詣が深く、非常に柔軟な発想を持っている。

マジッド殿下が興味を示した私たちの作品は、AIアートの生成した画像を日本の伝統和紙に転写し、そこに日本の伝統画材岩絵具で直接絵を施したもので、「富士山の前に佇むサムライ」の姿を描いたものだった。当初この絵は私が監督を務める国際侍映画『歳三の刀』で土方歳三役・源光士郎（AIアート集団「Paramita」の共同創始者でもある）の肖像画が待として描かれていた。

マジッド殿下には「侍の顔をマジッド殿下に、中東のイメージの鷹を日本の鳥に変えて描き変えて」と新規絵画の依頼をして頂いたのである。そこでドバイ滞在中に現地で購入したキャンバスや印刷機、画材の手配のもと新しい絵を仕上げ、最終日の3月18日、ラス・アル・ハイマール首長国王の王子専用迎賓館へお届けすることになった。

2026年カジノ建設・注目のUAE首長国

ラス・アル・ハイマール首長国はドバイから車で北東一時間〜一時間半ほど離れた人口

十一万人の首長国で、ドバイの通勤圏内だ。山と海に囲まれた「ロシアからの避寒地」としても知られるリゾート地で、テレビではロシア語チャネルも。ムスリム社会では性的表現をタブー視する傾向にあるが、王族が経営するホテル内のバーでは、カクテル



UAEの首長国王族マジッド殿下が経営のホテルに、殿下コレクションである増山麗奈絵画コーナーができました。マジッド殿下はじめ支えてくださる皆様に感謝いたします

で乾杯しながら腰をくねらせ愛を語り合うゲイカップルもいて驚いた。

私を案内してくれたドバイ在住のビジネスコーディネーター大谷行雄氏はこの地域と二十年の縁があり、王位継承権をめぐる争いの時にも変わらぬ友情を示したことから信頼を得、現在も王家と家族ぐるみでの付き合いをしている人物だ。アラブ服に身を包んだ大谷氏は七十一歳と思えないバイタリテイの持ち主だ。ア

ブダビ、ドバイ、ラス・アル・ハイマールをフットワーク軽く行き来し、日本人から中国人富裕層までビジネスコーディネイトを行う。

今回ラス・アル・ハイマール首長国のマジッド殿下に絵をご購入頂き、王子専用迎賓館に招かれたのも大谷氏の計らいである。

大谷氏は、日本人UAE移住計画「ネオトーキョー」を王室に提案し、好意的な反応を得ているという。その候補地の一つとなっていたのがこのラス・アル・ハイマール首長国である。

大谷氏はラス・アル・ハイマール首長国の可能性をこう語る。「マルジャン・アイランド」という人口島のエリアには2026年にカジノ建設が予定されています。このエリアのマンション物件はワンルーム一室現在2000万円で購入できる。カジノ建設が成功したら、かつてのドバイのように高騰する可能性を秘めています。最近では油田も見つかったとの報道があります。しかしまだ地価は安い。5万円の家賃で、ラス・アル・ハイマール首長国では珍しいタワーマンションの最上階で暮らすこともできます」

Mリーグとは

東京都 大山 桜

皆さんMリーグって聞いたことがありますか？そう、麻雀のプロのリーグなんです。では皆さん、「麻雀」ってどんなイメージがありますか？多くは、ギャンブル、煙草くさいところでおじさんの暇つぶしの遊びでしょ？と思われる方が多いかもしれない。でもそんなことはない。今、麻雀は1つの人生をかけた「競技」に変わっている。それがMリーグ。

私が麻雀を始めて2年目程度でMリーグは始まった。それまで私は独学で麻雀を勉強しており、プロの対局なんて興味を持っていなかった。そもそも、麻雀を嗜んでいるときにプロの対局で勉強しよう！なんて心持にはならなかった。それこそ下記にも書いてある通りその対局に魅力を感じなかったからだ。それは、野球やサッカーなどと同じようなもの。Mリーグはいわば、今までの麻雀の概念を

覆すものになった。Mリーグとは2018年に麻雀のプロスポーツ化を目的とした、サイバーエージェントの社長の藤田さんが発足した、ナショナルプロリーグだ。

10月～5月がシーズンとなっており、8つ（今年から9つ）のチームが4人体制で3位までの賞金を争う。1位の賞金はなんと5000万円。試合は水曜を除く平日で19時～ABEMAにて約4時間行われる。



株式会社U-NEXTによるチームパイレーツ

今までの麻雀との大きな違いは「チーム制」。麻雀って、それこそスーツを着たおっさんが、怖い感じで渋めの声で

個人対局をしているのが印象的だ。有名どころだと小島武夫さん（競技麻雀のプロ雀士、日本プロ麻雀連盟初代会長、九段、福岡市博多区出身、2018年82歳で没）とか。



パイレーツ小林剛氏。プロ歴28年

終わった。1つのチームの物語、もったかみ砕くと個人が麻雀にかける思い、それが私たち観客に伝わってくる。麻雀のいいところは老若男女誰でも問わず楽しめるところ

Mリーグは、麻雀のイメージを見事に覆した

2年目からはチームに女子を必ず入れないといけないというルールを作ること、対局中はユニフォームを着て対局を行うというルールもある。一気に今までの陰気臭いイメージがなくなり、爽やかなプロリーグになった。

ここまではMリーグの話になったが、冒頭にお話した「人生をかける」というところに戻ろう。麻雀に人生？ぶざける。そんな時代はもう

だ。50代の百戦錬磨のプロがこの前プロ入りした20代の女性に負ける。それがありうるのが麻雀。実力が100%発揮できない、裏返しにした牌には無限の可能性があり、誰もがまだその神髄にたどり着けていない麻雀。

時には上記のように頑張りが報われない場合もある。どれだけタイトルを取っている選手でも、運も持たないと勝ち上がるができない。それが面白い。頑張っても頑張っても、報

われないかもしれない。ただ、報われた人は絶対に努力をしている。麻雀プロはその、頑張っても無駄かもしれない努力を毎日行つて、理不尽な麻雀に挑んでいる。人の人生みたいな気がして、その過程をみているだけで自然とチームに感情移入して涙が出てくる。今までは自分のために打っていた麻雀を「チームのため」に打つ。そのチームの1人1人が麻雀にかける思いがフォークスされ、パーソナリティ含めて、自分の推しのチームが出てくる。（もちろん個人選手の推しもあるが）

そして今、5年目を迎えるMリーグ。パブリックビューイングなどに行くと、大きなところにぎっしりの観客が埋め尽くされている。周りには若い女性もたくさんいる。驚いたのは麻雀をしない人でもMリーグが好きなんもいる。このプロが好きでファンという理由などだ。「この熱狂を外へ」これはMリーグのスローガンだ。

私も読者の方に少しでも今後Mリーグの魅力を伝えたい。（筆者の推しはパイレーツです）

どう思いますか

「AI」が来る世の中を

バスに乗った。優先席が4つあってすぐにおじいちゃん、おばあちゃん

が、携帯操作は止まらない。夢中になっているのだろう。

とうとう優先席に座っていたおじいさんが言った。「見

ん、おばあちゃんでも埋まった。後ろにも一般の人の空席があった。若い女性が乗り込み、優先席の前の柱に腕を回して携帯を操作しはじめた。足はフラフラし、バスの運転手さんは「しっかり捕まって」と言った。

携帯を触っている時はあまり周りが見えない。優先席のおじいさんが、「この席を譲るから、座りなさい」と言った。女性は「大丈夫です。ありがとうございます」と丁寧にお礼を言った



「あたたかい心を生む」 中田 恭子

若いから、揺れても平気なのだろう。右に左に揺れながらも操作は止まらない。

てらんない。この席に座りな。座って携帯をつかいな。俺が立つから、とおじいさん

は席を立てて後ろに行かれた。「いえ、いえ、いいんです」と恐縮して気の毒そうに若い女性は言ったが、おじいさんはさっさと席を空けて行ってしまった。女性は仕方なく周りを見まわし、気の毒そうに優先席にすわった。悪気はないが、皆自分本位だし、時代が早く流れていて若い人は年寄りの気遣いが見えない。

年寄りもまた今時の若い人の行動が読めていない。携帯をいじりながら動く周囲が見えないし、自分と携帯の世界に入ってしまう。横断歩道でも左折の車を気にすることなく、ゆっくりと携帯と話し

ながら歩く若い人をよく見かける。片手で棒に捕まりながらフラフラしながら携帯をしても平気なのだ。転びでもしたら、年寄りにとっては致命的。すぐに骨が折れるし、筋を痛めるし。古希以前の私もいつも用心して歩くことに集中している気がする。だから、自分なら、転ぶかもと、声をかけずにはいられなかったおじいさんは席も譲ったのだろう。

若い女性は困った顔をし

て、座って、もう携帯も開かなかった。みんなの前で、年寄りから席を取る羽目になったことが恥ずかしかったのだろう。若い人には小さな親切余計なお世話、と言われそうだが、でも、小さな親切を心がけることを忘れたら、全くAIに支配された合理主義だけの世界が生まれ、人の心はずっと端に置いておかれる。世の中には、若い人、年寄り、いろいろ居て、それぞれの親切な気持ちをつばい持っていて、人は人らしく接していこうとしている。

AIと比べたら無駄かもしれない、余計なおせっかかもしれない、鬱陶しいかもしれない、でもそれが実は真心であり、親切であり、感謝であり、人が人である大切な教えるのだと私は思う。私たちはそうやって教えられて、そうやって長い年月を過ごして、そうやってこれからの若い人たちにも人にしか生まれない思いを伝えようとしている。

あの女性にも、人の気持ちを感じさせる大きな宝になったと信じてたい。

（画柳会代表 中田 恭子）

ウケ
人の
小景

連載
第24回

瀬戸内晴美・寂聴

曼荼羅の女

鎌倉在住 市川 隼

多様な外面を持ちながら、変わらぬ確固たる心の塊を内面に抱き続けた一人の女性が居た。晴美として1922年5月15日に誕生し、2021年11月9日に99歳で寂聴として示寂した瀬戸内だったが、26歳の時に家出し小説家として生き続け、51歳の時に、2度目の出家をして僧侶となり、99年間の生涯を閉じた。瀬戸内は、作家は自分の本当の姿を書かず、自分に都合の良い事しか書かないと述べているので、彼女の書いた姿がどこまで瀬戸内本人の姿

なのかは分からないが、「平凡」なお見合いで結婚して夫と3歳の子を捨て、4歳下の夫の教え子涼太（『夏の終わり』）と生活をしながら作家の道を目指し、生活力のない涼太や、小田仁次郎、井上光晴達との汗にまみれた生活を磨きながら作家としての腕を磨き、彼等との関係の清算を経て仏門に入る。古びた日本社会に抗する様に、自らの心や生活を赤裸々に小説に描き（『花の芯』、『夏の終り』等）、自らの心に叛かず生き抜いた女性達に燦燦と輝く光を当てながら彼女らを小説に描き切って（『田村俊子』、『女徳』、『かの子療乱』、『美は乱調にあり』等）、多くの読者を獲得した。

嘗て辻邦生は、山本周五郎を本能的小説家と評し、力の籠った作品が描けるのは、周五郎のように心底から小説家である人、生得の小説家だけであると評したが、周五郎は小説家を目指し、生活の方便（たつき）を立てる為に、少年少女向け雑誌に寄稿し続け筆を磨いたが、瀬戸内も、家を出てから小説家を目指し、少女雑誌への寄稿を生活の方



瀬戸内晴美・寂聴（HP）

便とし、筆を磨き続けた。瀬戸内は、人を愛し、人に愛された人生だったが、彼女の書いた『奇縁まんだら』に、愛し愛された様（さま）が描かれている。

『奇縁まんだら』では、瀬戸内が生活を共にしたり、教えを乞うたり、只管遠くから眺めたりした文人達が135名も登場し、彼女の思いが語られている。女学生時代、能

景を三島に報告した時、「私は鴉外先生を非常に尊敬しています。太宰は嫌いです。お詣りする時、太宰のお墓にお尻を向け、鴉外先生にお花を奉って下さい」との三島からの返事を紹介している。ファンレターなどへの返事など一



奇縁まんだら

切書かなかった三島が、引き込まれるように瀬戸内に返事を書いたのは、瀬戸内の筆の魅力に、引き寄せられたと云うべきかも知れない。

瀬戸内の祖母はクリスチャンで、卒業した東京女子大はプロテスタントの大学でもあり、遠藤周作にキリスト教の洗礼の相談もしていたが、彼女が選んだのは、天台宗であり、付き合いの深かった今東光の下に走り、「お願いがあつて参りました」と瀬戸内

が挨拶すると、東光は、雑然としていた事務所に伽羅を炊き清めた後、煩い事は一切聴かず、瀬戸内の出家の願いを直ちに受け入れ、すぐさま得度式の日程を決めたとされている。その後、「出離者は寂なるか梵音を聴く」と云う言葉から寂聴という名の法名が、瀬戸内に授けられた。

寂聴が出家した歳は51歳だったが、「人生50年」と云う言葉が彼女の骨に沁み込んでいたと述懐し、出家遁世への憧れは45歳頃から心の中に醸されていたと、「人が好き―私の履歴書―」に印し、「私が仏に近づいたのである。私が私を引っぱりよせたのだ。その力は強く、仏の意思に逆らう事は不可抗力だった」と述べている。出家して仏法を知り、最澄の言葉「忘己利他（もうこりた）」を心の柱にし、師僧今東光の教えに従い、筆を断たず書き続けながら、残りの半生を尼僧として、99歳の生を全うした。

日韓の入管法と外国人政策

具良鈺「韓国の入管法 憲法裁判所で違憲判断」から比較を試みる

一橋大学名誉教授 田中 宏

校無償化からの朝鮮学校除外に関連して、韓国で出版された『朝鮮学校物語』（日本版、花伝社2015）に、「消えてしまった私の故郷」を書いた在日の弁護士である。その「初めての故郷」は京都・宇治市のウトロ地区、「二つ目の故郷」は朝鮮学校で、次のように綴っている。

『世界』8月号で具良鈺さんの論考に驚いた。日本では、入管法改定案が、与党に「維新」と「国民」が加わって、成立してしまった（世界7月号に「命を奪う入管法改定」の記事）。日本でも入管の長期収容は問題となり、国会前のプラカードにも「Long Detention is Torture（長期収容は拷問だ）」とあったのを思い出す。

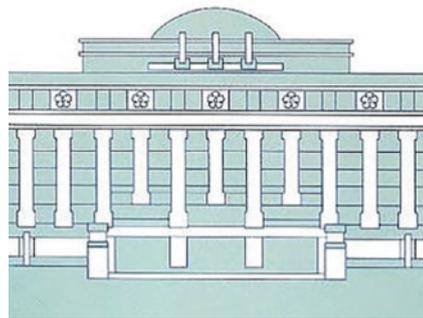
具さんは、私もかわる高

「日本の保育園に通った私は、なぜ自分の名前がみんなと違うのか、なぜ両親を、お父さんお母さんと呼ばず、「アボジ、オモニ」と呼ぶのか、すべてが疑問だらけでした。私の母校は、こんなもろもろの疑問にすべてきれいさっぱり答えてくれました。日本の保育園に行きたくないと駄々をこね母を困らせた私が、初めて心の底から行きたいと思った、あるべき居場所を探しあてたようでした。この学びのゆりかごが、2009年12月、そして2010年1月と3月、3回にわたり

「在特会」「在日特権を許さない市民の会」に襲撃されました。「在特会」は幼い在日朝鮮人の子どもの学舎の真前で、白昼堂々と一時間以上拡声器片手に「スパイ養

成機関だ」：「キムチ臭い」「日本から出ていけ」等々、あらゆる差別的暴言でヘイトスピーチを好き放題に行いました。この事件は、おりしも私が弁護士登録を終えたその月に起こりました」と。

「世界」稿は、「韓国の憲法裁判所は、2023年3月23日、退去強制命令を受けた外国人について、収容期間の上限を設けない現行の出入国管理法（第63条第1項）に対し



韓国の憲法裁判所

違憲判断（憲法不合法決定）を下した。この判断を受け、国会は2025年5月31日までに同条項を改正する義務を負う」と、日本にない憲法裁判所の具体的な判断を紹介している。そして、「韓国においては、人権侵害が起こった際、その救済のために活用で

きるルートが大きく四つある。裁判所（法院）、憲法裁判所、国家人権委員会及び「国連」条約機関に対する個人通報である。このルートが裁判所の一つしかない日本とは対照的である」と。国内人権機関の設置、個人通報制度の受諾、いずれも日本は国連の再々の勧告を受け入れていない。

私はかつて「定住外国人の地方参政権を実現させる日・韓・在日ネットワーク」に参加し、2005年5月、小泉純一郎首相が訪韓、盧武鉉大統領との首脳会談の際、両首脳に地方参政権開放に尽力願いたいとの書簡を送った。小泉首相からは何の反応もなかったが、韓国大統領府からは、6月30日、外国人に地方選挙権を付与する法案が国会を通過したことをお知らせしますとの回答が届いた。韓国では実現し、翌2006年の統一地方選挙から、永住外国人は投票している（日本と同じ4年毎で、すでに5回投票）。在韓日本人は、衆参両院の選挙は在韓日本公館で投票し、地方選挙は韓国の居住地で投票している。一方、在日韓国人は、大統領、国会議

員（一院制）選挙は在日韓国公館で投票しているが、日本の地方選挙に一票を投ずることはできない。久しく日韓の非対称が続くが、あまり話題にならない。

東京・武蔵野市が外国人参加の住民投票条例案を否決したのは、つい最近のこと（2021年12月）。韓国の「外国人選挙権者のための案内書・日本語版」には、次のようにある。「国は各々違いますが、8枚の権利の前ではみんな平等です。大韓民国は、ともに暮らすあなたの声に耳を傾けます」と。日本の地方選挙は前半と後半に分かれるが、韓国ではまとめて行われ、自治体の長、議員（選挙区と比例区）、教育監、教育議員も選挙なので8票となる。

中曽根康弘元首相主宰の世界平和研究所が、戦後60年の2005年1月に発表した「憲法改正試案」では、「国民」が姿を消し、「何人も」「すべて人は」にとつてかわられ、さらに憲法裁判所の設置を定めるが、なぜか日本では注目されない。彼私のこうした違いはどこから来るのか、少し考えてみたい。

生まれ変わったら、 また

前島 咲子

「生まれ変わったら、また一緒に暮らすか」。夫がさりげない調子で言った。夫がさり

彼は小細胞肺がんを発症し、がんセンターから退院後、自宅で緩和ケアを受けていた。「マーカールが上がり始めたら2週間だよ」と主治医から言

いわたさ
れていて、
すでに腫
瘍マーカ
ーは上が
り始めて
いた。

まとも
に受け答
えたら、

夫は自分の死期を悟るに違いない。とっさに、「えっ、またあなたと。私、もつといい男を探すわ」と返した。「ウフフ」。彼はしばらく笑っていた。それが、私と夫が交わした最後の言葉になった。

何となく気が合いそうだというあいまいな理由で、私たちは結婚した。結婚後も、



「釣った魚にエサをやるバカはいない」が彼の口癖だったから、どう記憶をたどっても、「愛してる」なんて気の利いたセリフをささやかれた覚えがない。

ただ、お互いおしゃべりは大好きだった。読んだ本、見た映画、相撲やゴルフ、スキー競技、人物評、社会での出来事、飼っていた犬のしつけなど、おしゃべりのタネはいくらでもあったから、散々おしゃべりを楽しんだ。しかし、改まって愛の告白など、私も気恥しくて口に出したことはない。

夫がいなくなつてずいぶん経つてから、死の前日に彼が私にかけて言葉は、彼なりの精いっぱい告白だったのではないかと気づいた。いま、毎朝夫の遺影に声をかけている。「おはよう！ 私は今日も生きている。そのうち生まれ変わるから、待っていてね。」

余録

当誌前73号に掲載の「ある台湾人の米中関係への意見」について読者から「興味深かった」と以下の感想をいただきました（一部要約抜粋）。「台湾中部や南部では親中のな考えを持つ人が多いと聞きます。陰に陽に台湾併合を推し進める中国共産党の影響で、特に経済実務に携わる人々の間では、アメリカに『もうやめてくれ』と言いたい人の割合が増えているのではな

編集後記

白く照り映え、人つ子一人いない通り。地中から地上に出たセミの、わずか数日の命の大合唱が頭上に降り注ぐ。その音のシャワーは無音さを感じさせるから不思議。生と死が交錯する夏はいとおしい季節です。とはいえ今年の暑さは凄まじい。世界中で山火事が発生、気候、地球環境は一体どうなるのか。便利さを

で中国共産党が何をしているかを考えると、台湾が中国に飲み込まれるのを座視することはできないと思います。そもそも『一つの中国』を容認したのはアメリカを始めとする、日本を含めた西側諸国です。西側が正当に主張できるのは「現状を力変更してもらいたくない」とだけで、冷たいことを言うようです。仮に中国共産党が台湾に武力侵攻しても西側がそれを阻止する権利はないと思います。日本は『誰が何と言おうと我が道を行く』中国共産党が、いよいよその姿が見える

追求め自然から奪い続けてきた文明、人間社会のありようへの逆襲なのか。このまま行けば、地球は滅亡への道をひた走ること。今、できることをしなければなりません。領土をめぐる争うロシアの愚かさ。地球滅べば元も子もなし▼今回も多くの新しい執筆者が参加してくださいました。ありがとうございます。前々号に登場していた矢島さんの木版画「少年期」。懐かしい時代が彷彿とします。台湾の方から前号に

ところまで近づくことを覚悟しなければなりません。この点で『新外交イニシアティブの提言』は傾聴に値する論説です。一方、日本では勇ましい言論が幅を利かせているように御誌が敢えて久氏の意見を取り上げたのは大変ありがたいことだったと思います。御誌がますます多くのいい記事掲載されて、愛読者が増えることを切に願っております。背中を押してください。読者に励まされます。今号も台湾人の久氏の第2弾原稿を掲載しました。

続く率直な視点が寄せられました。また写真家の山本宗補さんがインド仏教界の最高指導者となった佐々井秀嶺氏の活動を紹介、スペースの都合で写真掲載が1枚になってしまいました。さらに「省エネ自給のまちづくり」を進める小山田大和さんのプロジェクト、地元根ざした農業やエネルギーなどの新地平を拓く地域活性化への活動が進行中。そして中田恭子さんが日常の情景からAIへの一石を投じてくれました。

私の「社会保障立国」論

東京 江戸川区 弁護士 柴田 勝之

私は弁護士として28年間働いてきた中で、社会保障の不備が原因で、貧困や犯罪などの不幸に見舞われた人をたくさん見てきました。そのため、十分な社会保障を整備すること、具体的には「衣食住・医療・介護・教育」を日本に生きたる全ての人（外国人を含む）に不安なく保障することが必要と考えています。以下では、私の持論である、日本がさらなる経済発展を遂げるためにも社会保障を完備すべきという「社会保障立国」論の概略を述べたいと思います。

諸外国の実例

日本は社会保障と経済成長のバランスが取れた「中負担・中福祉」国家を目指す、という言い方を聞くことがあります。社会保障は経済成長にとって足かせというイメージがあるのでしょうか。しかし、経済成長の指標である「一人当たりの名目GDP



街頭演説中の筆者

P（米ドル）」2022年ランキングの1位はルクセンブルク、2位はノルウェーで、いずれも「高負担・高福祉」国家として有名です。この実例からしても「高負担・高福祉」が国の経済成長を阻害するものではなく、むしろ成長に資するものであることが実証されていると思います。

社会保障支出の経済波及効果

政府支出の増加は「国のお金がなくなることを意味しません。日本国内で支出される限りは政府の支出＝国民の収入ですので、国（政府＋国民）のお金全体としては変わ

りません（ちなみに国のお金で外国から兵器等を買うことは国富の流出になります）。そして政府支出の増加には、支出先の従事者が使えるお金を増やし、その使ったお金を

を受け取った者が使えるお金も増やし、またそのお金を受け取った者が…という経済波及効果があります。兪炳匡著『日本再生のための「プランB」』では、

社会保障支出の経済波及効果は公共事業支出などと比べても高い（例えば保健衛生部門への支出は、支出額の6・106倍に及ぶGDP増額効果がある）という研究結果が紹介されています。

社会保障完備による「資産選好」減少

小野善康著「資本主義の方程式」は、経済が成長段階から成熟段階に移行して人々の「資産選好」が「消費選好」を上回る（お金を消費するよりも蓄えたいくなる）ようになったことが、経済停滞と格差拡大の原因としていま

す。前項で述べた経済波及効果も、お金を受け取った人がそのお金を使わずに貯めてしまつと効果が損なわれます。私の父（83歳）は将来が不安だと言つて貯金を使おうとしませんが、日本には同じような高齢者が多いのではないかと思います。他方、社会保障への信頼が高い北欧諸国では将来不安から貯蓄に励む人は少ないと言われます。日本でも社会保障を完備して将来不安を解消することが「資産選好」を減少させ経済成長に資すると考えます。

「心理的安全性」によるパフォーマンズの向上

組織論においては、心理的安全性（構成員がリスクを感じることなく安心して自分の考えを述べたり行動したりで



秋田県抱返り溪谷への司法研修所教官旅行（右端が筆者）

きること）が、構成員の生産性・創造性・学習能力や、構成員同士の連帯感・チームワークを高め、組織全体のパフォーマンスを向上させるとされています。少し飛躍があるかもしれませんが、私は、日本も一つの組織と見立てて、社会保障を完備することが日本に暮らす人々の「心理的安全性」を高め、日本全体のパフォーマンス向上につながるという考えを持っています。例えば、もし失敗しても社会保障というセーフティネットがあるとさえリスクを冒して起業に挑戦する人も増えると思いますし、解雇されて路頭に迷う恐れから経営者に意見したり不正を告発したりできないといったことも減って、より公正で活力ある社会になっていくと考えます。

私は、不幸な人を減らすために自分の人生を最大限に活かしたいという思いから、政治の世界に転身する決意をしました。そして以上述べた理由から、政治活動の中でも社会保障の整備にライフワークとして取り組んでいきたいと考えています。